



# 小中を通したコミュニケーション能力の育成を目指して

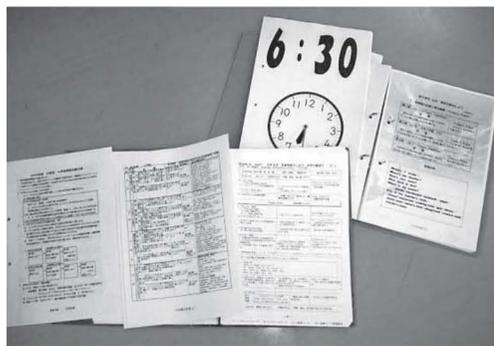
## — 小学校外国語活動カリキュラム作成と小中連携 —

小牧市英語教育推進委員会 愛知県小牧市立小牧中学校 山本 敦子

### 1. 統一カリキュラム導入の流れ

小牧市では、平成18年度より「英語教育推進委員会」を発足し、小学校外国語活動の一斉導入に向けた調査研究を始めました。翌19年度からは各小学校の外国語活動担当教師による「外国語活動推進委員会」を組織し、市内統一カリキュラム、レッスンプラン集の作成に取りかかりました。統一カリキュラムは平成20年3月に告示された新学習指導要領の内容を実施できるよう、『英語ノート』の内容を各単元に配置して完成させており、21年度から、これを使った外国語活動をスタートしています。

また、このカリキュラムの内容を市内全小学校に普及させ、中学校との連携も図るために、従来から市内中学校英語教師と小学校英語担当者で活動してきた「英語教育研究会」に、本年度より各小学校5、6年の外国語活動担当教師も加えて、月に1回研修会を行っています。



### 2. 外国語活動導入成功のための3つの柱と実践

次に紹介するのは、外国語活動導入成功の

ために設定した3つの柱と実践です。

**(柱1) 児童を中心に据え、担任と児童と一緒に学び合う授業形態**

① DVDを活用し、理解を助けながらALT指導から担任指導へスムーズに移行

<授業の流れ>

#### 第1時 担任+ALT

Native SpeakerのALTによる指導を活用し、単元全体の新出表現やその使い方を楽しく導入。TPR (Total Physical Response) によるinput理解



#### 第2時 担任+協力員 教材：DVD

映像で状況を判断しつつNative Speakerの音声を理解。担任指導による復習的なアクティビティ



#### 第3時 担任+ALT (+協力員)

教材：英語ノート(電子黒板用ソフト)  
体験的なコミュニケーション活動や国際理解的な活動

小学校段階の児童は、音声に対して柔軟な適応力があるのでNative Speakerによる質の高い英語の音声を聞かせたい。そして、それを担任の持つ指導技術によって理解させ、慣れ親しませていく。そのために市独自のDVDを製作し、映像に登場するALTとやりとりをしながら、教師と児童が共に楽しく学び合う授業形態をとることにしました。担任の音声面や授業運営での不安が解消できるとともに、機器を使うことで、必要があれば何度も同じ会話を聞かせることができる手軽さも重宝しています。

第3時に関しては、レッスンプラン集作成

段階で、英語ノートから各月の活動内容とできるだけ関連する内容を選ぶこと、英語ノートのほぼすべての単元から偏りなく内容を拾い上げることに留意しました。「幅広い言語や文化に対する気付きや理解、何のために外国語を学ぶのかという動機づけ、日本語に対する認識を深めるなど、中学校からの英語学習の礎となる内容を含む体験的な活動となるよう」という英語ノート使用の趣旨を確認し合い、英語ノート試作版や指導書を基に、推進委員で手分けをして作りました。各校に配置された電子黒板を活用できるよう、電子黒板用ソフトの活用研修会も行っています。

第1時でALTとともに導入した語彙や表現を、単元全体を通してさまざまな媒体から繰り返し聞いたり、ゲームやアクティビティの中で楽しく使ったりすることで、知らず知らずのうちに音声に慣れ親しみ、第3時のコミュニケーション活動が無理なく行えるようになることを目的としています。

## ② 児童が主体的に取り組むための活動形態と、指導者の役割分担の明確化

児童を外国語活動に主体的に取り組ませるため、日直を中心にして、あいさつや目標の提示などを行う活動形態にしました。また、担任、ALT、協力員（英語の堪能な地域のボランティアの方）の働きかけの役割分担を明確化したマニュアルを作成しました。

### 〔柱2〕 中学校につながる積極的なコミュニケーション態度の育成

#### ① コミュニケーション態度目標の共通理解

教師、ALT、協力員と児童が合言葉にし

Communication Aims and Evaluation Points <b>コミュニケーション目標と評価ポイント</b> 一人一人の活動を充実させる児童の活動目標と評価	
外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をはかるために、児童にも目標の意味を伝え、自己評価や相互評価、ふり返りを通じて定着を図っていきましょう。	
<b>Smile</b> .....	笑顔で会話をしよう (心が開かれる)
<b>Eye Contact</b> .....	相手の目を見て会話をしよう (信頼感)
<b>Listen and Reply</b> .....	相手の話をよく聞き、相づちを打とう (真実さ・相手への敬重)
<b>Clear Voice</b> .....	はっきりりした声で伝えよう (自己表現・聞き手への意識)
<b>Positive Attitude</b> .....	積極的に伝えよう～表情豊かに、 まちがいをおそれぬ積極的な姿勢 ジェスチャーを使って

て励ましあうことができるような5つの目標を設定し、それぞれの言葉の具体的目標と意義付けを共通理解できるようにしました。

#### ② レッスンプランへの相互評価活動の位置付け

授業の最初の目標確認、活動中での相互評価、また授業の最後でのふり返りと、児童と児童がお互いに相手のよいところを見つけ合い、よりよいコミュニケーション態度を学び合うことができるよう相互評価や自己評価を位置付けました。中学校でも同じコミュニケーション目標を掲げて取り組んでいます。

### 〔柱3〕 小中教師が連携して、指導方法を探究する研修体制づくり

毎月開かれる英語教育研究会では、各分野の第一線で活躍されている講師の先生を招いて、指導方法、研修会の開き方、言語習得理論などを学び、各中学校区ブロックでは、小中の教師がレッスンプラン集を使った模擬授業交流会を実施したり、翌月の授業について相談したりする活動を行っています。



### 3. 今後の課題

小牧市では小中の連携を効果的に行っていくために、次の3つの課題を掲げ、研究を続けています。そのためにも、小中学校の教師の積極的な関わり合いの場を確保して行くことが大切と考えています。

- ① DVDなどの教材を活用した小中の連携
- ② レッスン内容の効果的な連携
- ③ 言語習得理論を活用したカリキュラムの見直し